

# ロボット手術 保険適用

## 病院の「実力」

\* 徳島編129

### 肺がん

今回は、がんの年間死亡数で最も多い肺がんを取り上げる。一覧表には2017年に新たに行った治療の実績を掲載した。

肺がんには四つのタイプがある。まず小細胞肺がん、非小細胞肺がんは大別さらに、腺がん、扁平上皮がん、大細胞がんに分かれる。

治療法は、手術、放射線療法、薬物療法の三つ。がんのタイプや進み具合、全身の状態により、複数の治療法を組み合わせて行うこともある。

標準的な手術は、がんのある肺葉という部分の切除

だ。近年、肺葉より狭い範囲の「区域」などを切除する縮小手術も行われる。胸腔鏡を使う方法では今春、ロボット手術も保険が適用されるようになった。放射線治療のうち、根治

抗がん剤のほか、がんの遺伝子変異に応じて使う分子標的薬や、免疫の働きを高める免疫チェックポイント阻害薬も、次々と新薬が登場している。

### 免疫治療薬 開発進む



徳島大学病院呼吸器・膠原病内科 西岡 安彦科長

徳島大学病院呼吸器・膠原病内科の西岡安彦科長(54)は、肺がん治療の現状について聞いた。

肺がんは、かつては薬物治療が遅れている病気とされてきましたが、最近では画期的な新薬が次々と登場し、現場の対応も変わってきています。

古くから使われているのは抗がん剤ですが、2000年代からがんの原因となる遺伝子を標的にする分子標的薬が始められました。最

近では、リンパ球の働きを阻害するブレイキを外すことで、がん細胞に対する免疫力を高める免疫治療薬(免疫チェックポイント阻害薬)の開発が急速に進んできています。

免疫治療薬といえは、今年のノーベル生理学・医学賞を取った本庶佑さんの研究が基になって生まれた「オプジーボ」。アメリカが昨年発表した臨床試験結果では、この薬で、従来の治療法では長生きを期待

できないがんの一つだが、治療法の進歩が目覚ましいがんでもある。患者は希望を失わず、主治医から、確かで信頼できる最新の情報を入手してほしい。

### 病院の実力「肺がん」

医療機関別2017年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	放射線治療(根治的照射)患者数		
	手術患者数(人)	薬物療法を受けた患者数(人)	患者数(人)
<b>徳島県</b>			
徳島大	114	90	37
徳島赤十字	57	22	5
<b>香川県</b>			
香川大	121	134	35
三豊総合	47	24	8
香川労災	39	10	9
坂出市立	35	31	0
高松市立みんな	23	19	6
<b>愛媛県</b>			
国・四国がんセンター	185	198	61
愛媛大	106	24	51
松山赤十字	78	50	8
済生会今治	50	20	12
市立宇和島	34	37	6
HITO	1	3	0
<b>高知県</b>			
高知医療セ	92	92	39
高知大	89	20	3

「国・四国がんセンター」は国立病院機構「セ」はセンター。

全国の調査結果は19頁の「安心設計面」に掲載しました。